

令和3年度農林水産データ管理・活用基盤強化事業
農機 API 共通化コンソーシアム第2回事業検討委員会
議事概要

日 時：令和3年10月27日（水） 13：00～15：30

開催方法：Microsoft Teams によるオンライン開催

出席委員：澁澤委員長、西村委員、川村（周三）委員、安場委員、平野委員、土方委員、吉田委員、斎藤委員、丸田委員、大山委員、山ノ上委員、生駒委員、川口委員、藤盛委員、戸谷委員、藤村委員、宮原委員、榎委員、村田委員、藤原委員、川村（隆浩）委員、田中委員、塩見委員、安原委員、杉本委員、日高委員、林委員、青木委員、野田委員、深津委員、竹崎委員

【ポイント】

1. 澁澤委員長より、本事業は生産者及び日本の農業に大きな影響を与えるため、生産者にメリットをもたらすことを念頭に置きながら取り組む必要があることを伝達。
2. 議事次第に沿って以下の報告・説明を実施
 - ・各 WG の座長・進行管理役より各 WG の進捗状況・成果を報告
 - ・デロイトより農機共通 API 仕様書作成の要点、API 利用規則の検討状況及び API 基盤構築における先行事例調査の結果を報告
 - ・コンソ事務局（農機研）より接続検証の目的、検証方法や実施時期等について説明
3. 委員からは、接続検証を早期に実施すべき、トライアンドエラーの必要期間を想定した上、着手可能な部分から先行して実施すべき等との助言。
4. ガイドラインでロードマップが示されている WG1 の農機に関するデータ項目については、今年度中に業界団体で議論の場を設け、メーカーを中心とした関係者が協議を実施することで合意。
5. 第3回事業検討委員会は、2022年2月下旬で調整。

概 要：次第に沿って各 WG の進捗・成果、コンソ全体の進捗・成果を報告。その後、公開シンポジウムの開催案内、今後のスケジュール確認を行った。各委員からの質疑応答等の概要は以下のとおり。

【挨拶】

- 農研機構農機研の大谷所長より挨拶。本コンソーシアムは、スマート農業総合対策事業のうち、農林水産データ管理・活用基盤強化事業の農機 API 共通化コンソーシアムとしてスタートした。中間とりまとめの時期となったが、各ワーキンググループの活動は順調に進捗していると聞いている。また、公開シンポジウムにおいて事業の重要性を共

有しスマート農業推進の一翼を担えるよう期待している。年度末の最終取りまとめに向け、委員には引き続き助言・指導をお願いしたい旨を伝達。また、本事業の立ち上げに尽力頂いた農林水産省大臣官房に感謝の旨を伝達。

【委員長報告】

- 委員長の東京農工大学の澁澤特任教授より、本事業に参画する企業は日本農業を支える主要な技術提供部隊であり、ここに集まって 1 つの方向を出すことは、日本農業全体に大きく影響を与える。データの共有は農家にメリットをもたらす取組であり、生産者が成果を共有できることを念頭に置きながら議論を進めてほしい旨を説明。

【各ワーキンググループの進捗状況・成果について】

各 WG の座長・進行管理役より各 WG の進捗状況・成果を報告。委員からの主な意見は以下のとおり。

- WG1（ほ場農業機械）
 - 農家より提供されたデータは個人情報であるため、接続検証や実装後のサービス提供に先立ち、農家との契約締結について検討が必要である。
 - データの 2 次利用・加工の規則に関して、昨年のガイドラインにあるデータ 2 次利用の指針を参考しながら検討が必要である。
- WG2（穀物乾燥調製施設）
 - 用語を完全統一するより、項目間の紐付けで API 標準化がスムーズに推進できれば良い。
 - 先行する WG 1 と同時に WG 2（穀物乾燥機）もシステムの開発を進める必要があるため、早めに API の骨子を固め、農機メーカーがシステム開発に取り組めるようにしていく必要がある。
- WG3（施設園芸機器）
 - プレーヤー、タスクが決まり、期限までにそれなりの成果が出そうな状況であり、引き続き精力的な取組に期待。

【コンソ全体の進捗・成果について】

各担当より進捗状況を報告。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 農機共通化 API 仕様書の構成案
 - （特段の意見はなかった。）
- 接続検証の準備状況、検証方法、結果の取りまとめについて
 - 接続検証の実施時期が 2 月下旬～3 月上旬に予定されているため、第 3 回事業検討委員会の開催時期と重なる等、予定通り進まない可能性がある。着手可能な部分から先行して実施すべきではないか。

- ◇ トライアンドエラーの期間が必要と想定されるため、スケジュールを 1 カ月前倒しし、アプリ開発は 12 月末を目標とすべき。接続検証におけるユースケースの精査は劣後で良い（事務局より「特に WG1 について、農機メーカー側の進捗に遅れないよう、接続検証アプリの請負企業と協議し、接続検証を早めに着手できるように務める」と回答。）
- API 利用規約の検討状況/準備状況について
 - 西オーストラリア州政府の事例をより詳しく調べるべき。
 - ◇ リーガル観点：EU のポリシーが反映されているはずのため、注目すべき。
 - ◇ 他観点：カートン大学に世界最先端と言われる **On-Farm Experimentation (OFE、農家目線のデジタルテクノロジー農業実証研究)** の研究拠点が設置されており、農家の受け入れ姿勢、データの解析や公的機関の役割等をまとめているため、オープン API の 1 つのモデルとして参考にできる可能性があるのではないか。
- API 基盤構築における先行事例調査結果について
 - 今回の先行事例調査をどのように本事業遂行に活用していく予定であるか。今回は経過報告であると思うが、現状の調査結果で分かったこと、事業へのフィードバックについての現状の考えを聞かせて欲しい（担当からの回答は以下のとおり）。
 - ◇ 海外有識者インタビュー等の先行事例調査結果、先進国のトレンドと本コンソーシアムの方向性にはズレはないとの認識であり、今後、今回の取り組みに対する示唆として取り纏める意向である。
 - ◇ プロダクトアウトではなくマーケットインで設計するという考え方は WG3 のアプローチにすでに反映されている。データの所有権管理・農家データの保護についての考え方は API 利用規約を検討する上で参考とする。
 - ◇ 銀行業界有識者へのインタビューにおいては、全てを標準化せず、アグリゲーターのようなプレーヤーの参入の余地を残す考え方があったため、本取り組みの標準化範囲の策定に参考となる。
 - オープン API の進行にともない、権利問題・倫理問題が発生すると予測しているため、世界のトレンドを参照しながら、起こりうる問題をカバーできるよう本事業を推進することが重要。

【その他】

- 事務局から 12 月 10 日に開催される（一社）農業食料工学会主催のテクノフェスタにおいてオープン API をテーマに基調講演と分科会を開催すること、本コンソーシアムのメンバーからも農業データの利活用について話題提供があることを報告。
- オブザーバー出席の農林水産省からコンソーシアムに対して以下のとおり情勢を報告。
 - 概算要求の段階ではあるが、次年度の事業については、今年度と同規模、内容に変

更が無いように調整中。

- 特に WG1 に影響の大きい導入支援の補助金等の要件化に関しては、条件等について省内で検討中。決まり次第アナウンスする。これに関係し、オープン API 対応機種であることの表示方法について、関係各社に対して意見聴取を行う予定。
- 来年度に向け、WG1 の検討対象となるデータ項目等についての議論を今年度中に実施しておくべきであり、日農工が場を設定し、メーカー（クボタ、ヤンマーアグリ、井関農機、三菱マヒンドラ農機）に加え、農機研が議論に参加することで合意。
- 機械化協会主催の機械化フォーラムが 2022 年 2 月末～3 月末に開催される予定。今年度は農業 API をテーマとし、生産者や一般の農業関係者にも分かりやすく動向を取り上げる。日程詳細は後日アナウンスする。
- 第 3 回事業検討委員会の開催日時は、2022 年 2 月下旬で調整する。

—以上—